

まちづくり交付金 事後評価シート
巖原城下町地区

平成21年11月

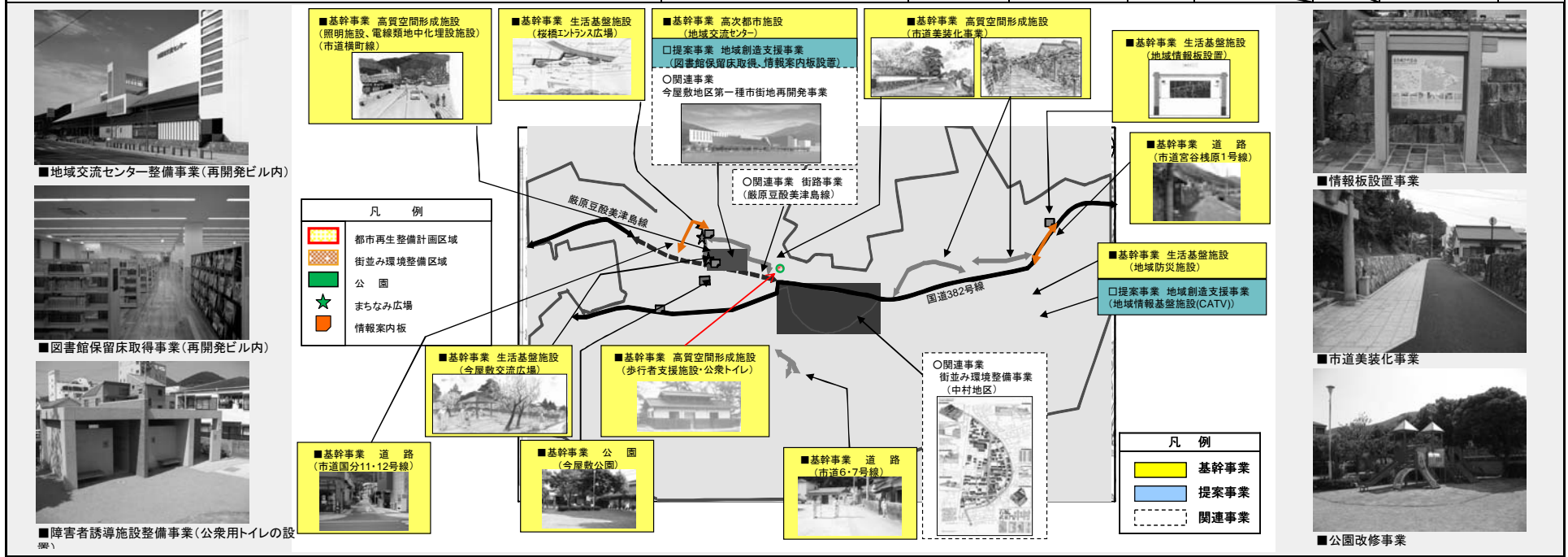
長崎県対馬市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長崎県		市町村名	対馬市		地区名	厳原城下町地区			面積	215ha									
交付期間	平成17年度～平成21年度		事後評価実施時期	平成21年度		交付対象事業費	3355.4百万円	国費率	0.400											
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名																	
			基幹事業	地域生活基盤施設(広場、案内板)、高質空間形成施設(緑化施設等(市道美化事業、モニュメント、ストリートファニチャー他)、高次都市施設(地域交流センター)																
			提案事業	地域創造支援事業(「蔵」整備促進助成事業、市ヶ峰「時鐘道」広場プラネタリウム、情報板設置)、まちづくり活動推進(まちづくり活動促進事業)																
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響											
			基幹事業	地域生活基盤事業(緑化施設等(モニュメント、ストリートファニチャー他))			・用地取得が困難なため削除(第3回変更)			目標に関連するが、目標・指標は据え置く										
		提案事業	地域創造支援事業(「蔵」整備促進助成事業、市ヶ峰「時鐘道」広場プラネタリウム)			・地元住民の理解が得られないため削除(第3回変更) ・維持管理と利用料との均衡が取れないとの判断から削除(第3回変更)			目標に関連するが、目標・指標は据え置く											
新たに追加した事業		基幹事業	道路(市道改良(天道茂6・7号線、国分11・12号線、宮谷椋原1号線)、公園(公園改修)、地域生活基盤施設(防災施設)、高質空間形成施設(緑化施設等(照明施設)、歩行者支援施設、障害者誘導施設等)			・事業の見直しにより、市民や観光客の町歩きルートとなっているため、道路整備を追加する。(第5回変更) ・観光客や住民のまち歩きルートに於いて、歩行者支援施設である公衆トイレを追加し、交流人口の拡大の一役を担う。(第4回変更)			目標に関連するが、目標・指標は据え置く											
		提案事業	地域創造支援事業(図書館保留床取得事業、地域情報基盤施設整備事業、既存建物解体・除去)、事業活用調査(事業効果分析調査)			・都市機能を高めるための都市福祉施設整備に伴う保留床取得。 ・観光客や住民のまち歩きルートに於いて、歩行者支援施設である公衆トイレを追加し、交流人口の拡大の一役を担う。(第4回変更) ・事業の効果に必要な資料を整理するため事業効果分析調査を追加する。(第5回変更)			地域創造支援事業(地域情報基盤施設整備事業)の追加に伴い、指標5「行政や福祉、イベント等の情報提供」を追加											
交付期間の変更		当初	平成17年度～21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし													
		変更	なし																	
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期							
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値												
	指標1	地域交流センターイベント開催数	回/年	14回/年	H15	52回/年	H21	464回/年	○	あり なし	地域交流センター内の各施設で、サークル活動や会合など多種多様な交流活動を行うことができ、広く市民に活用されている。	平成22年4月								
	指標2	観光客入り込み数	人/年	93,502人/年	H14	116,000人/年	H21	124,000人/年	○	あり なし	観光客数は年々増加傾向にあるが、社会経済情勢に左右されやすいため、今後は減少傾向になる可能性も高い。近年、外国人観光客が急激に増加したことが観光客数の増加に繋がってきたこともあり、観光産業を維持するための対策を図っていく必要がある。	平成22年10月								
	指標3	外国人観光客宿泊実数	人/年	6,777人/年	H14	8,800人/年	H21	41,800人/年	○	あり なし	指標2と同様に、観光産業を維持するための対策を図っていく必要がある。	平成22年10月								
	指標4	厳原地区小売り商業購買額	億円/年	122億円/年	H14	152億円/年	H21	152億円/年	○	あり なし	厳原地区の小売り商業購買額は増加傾向を示しており、目標の達成が見込まれるが、要因としては再開発ビルの建設が影響している。しかし、商店数や従業者数は減少傾向にあり、商業の活性化を進める必要がある。	平成23年7月								
指標5	行政や福祉、イベント等の情報提供	回/年	12回/年	H15	365回/年	H22	365回/年	○	あり なし	当指標は、行政や福祉、イベント等の情報提供を行うことを目標としており、平成22年4月1日から全市において自主放送を含めた対馬全域同時放送が開始されることで、目標を達成できる。	平成22年4月									
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期							
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値												
その他の数値指標1	地域交流センターの交流人口	人/年	16,3505人/年	H14			78,025人/年					再開発ビル内の地域交流センターは、中心市街地における拠点施設であり、公共施設(公民館、イベントホール、図書館、駐車場)の整備によって、交流人口が飛躍的に増加しており、事業による効果が見られた。	平成22年4月							
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり交付金事業によって、市の中心部に必要とされる都市機能が集積した。 ・街並み景観への住民意識も高まり、道路沿道における建築協定が実践されている。 ・地区内住民のまちづくりに対する機運が高まりつつあり中心市街地の活性化に向けた取組みに移行しつつある。 ・ボランティア活動やイベントの開催など市民活動が増加した。 																			
5)実施過程の評価	実施内容						実施状況						今後の対応方針等							
	モニタリング		事業効果については、一部指標において経過観測は行ったが、すべての指標の確認が行えなかったため、事業成果の評価や事業の進め方の改善等に関する検討は行っていない						都市再生整備計画に記載し、実施できた						<ul style="list-style-type: none"> ・今後の計画では、モニタリングや住民参加を積極的に取り入れ、住民との協働のまちづくりを目指す ・中心市街地活性化基本計画の認定に向けた地元協議組織への発展に繋げたい ・中心市街地活性化基本計画の認定に向けた地元協議組織への発展に繋げたい 					
									都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した											
									都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
住民参加プロセス		【実施頻度】戦略会議8回開催、ワークショップ5回開催 【実施時期】平成17年11月～平成18年6月 【実施結果】中心市街地におけるまちづくり戦略の検討や、まちづくり交付金事業と連動した城下町の商店街らしい街並み形成の検討を行った。						都市再生整備計画に記載し、実施できた												
								都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した												
								都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった												
持続的なまちづくり体制の構築		大町通り区域内のメインストリートにふさわしい新しい街並みの形成に関するルールづくり						都市再生整備計画に記載し、実施できた												
								都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した												
								都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった												

様式2-2 地区の概要

蔽原城下町地区(長崎県対馬市) まちづくり交付金の成果概要						
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値		
目標:「市民・観光客の交流拠点」としての中心市街地の再生及び情報の共有化	地域交流センターイベント開催数	単位:回/年	14 H15	52 H21	464	H21
	観光客入り込み数	単位:人/年	93,502 H14	116,000 H21	124,000	H21
	外国人観光客宿泊実数	単位:人/年	6,777 H14	8,800 H21	41,800	H21
	蔽原地区小売り商業購買額	単位:億円/年	122 H14	152 H21	152	H21
	行政や福祉、イベント等の情報提供	単位:回/年	12 H15	365 H22	365	H22
	地域交流センターの交流人口	単位:人/年	163,505 H14			78,025



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地全体の活性化の機運は高まりつつあるが、今後、活性化に向けた施策及び取り組み内容の検討、中心商業地の活性化が必要 再開発ビルの交流人口は大幅に増加したが、周辺商業地へ回遊性させる方策の検討が必要 また、市民や観光客を回遊させる仕掛けづくりが必要 韓国人観光客の増加に伴って、外国人観光客数は大幅に増加したが、観光客のマナーの改善が必要
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な会議の開催 中心市街地活性化基本計画の認定に向けた取組み 地域交流センターでの定期的なイベント、コンサート、演劇等の開催 イベントやサークル活動の開催PR等による参加者の確保 地域住民の協力による清掃活動や補修等による美しい道路環境の維持 空き店舗の活用やテナントミックス等による商業施設の集約、及び商業戦略の検討の推進 再開発ビルの交流人口を周辺の商業地に回遊させるための仕掛けづくりや施設整備の推進 外国人観光客に対するマナー向上に向けた意識啓発活動の推進